



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年8月30日（火）



今朝は少し肌寒いくらいの気温でしたが、このくらいの方が過ごしやすいですね。休み時間になると、子供たちは校庭で元気よく遊んでいます。熱中症の心配もないので、安心して見ていられます。2年生と3年生がそれぞれドッジボールをしています。男女仲良く遊ぶ姿は微笑ましいです。

ドッジボールの発祥は英国という説が一般的ですが、現在のドッジボールの原型は1900年頃のように、日本に入ってきたのが、明治42年。円形のコートで攻撃側と防御側に分かれてゲームをしていました。当時は「デッドボール」と呼ばれていました。方形のコートになったのは、大正6年です。ドッジボールという名称になり、現在と同様のルールになったのは、大正15年でした。今も昔も、ドッジボールは子供たちが大好きで慣れ親しんだボールゲームです。



音楽の授業では、校内音楽会に向けた取り組みが始まりました。感染予防対策のため、今年も合唱は行わず、器楽のみとなります。学年の発達段階に応じて演奏する曲目も決まり、先生から楽譜が配付されました。配付といっても、紙ベースの楽譜ではなく、各自のタブレットに楽譜の電子データが送られています。子供たちは、譜面台にタブレットを載せて練習開始です。みんな真剣に取り組んでいます。



画像は、給食の片づけの様子です。給食当番さんが食缶や食器を配送用コンテナに戻しています。実は、ここ数年、大規模改修工事と感染症予防対策の関係から、子供たちが食缶・食器をコンテナに戻すことは行わず、教員や配膳員が行っていました。コロナ禍は依然として続いているですが、手洗い・消毒等をきちんと行えば、感染リスクを軽減できることもわかってきましたので、2学期からは以前と同様に子供たちが片づけを行うことになりました。食に感謝し、準備から片づけまできちんと行うことは、大切な教育活動です。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

